



# 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2020年  
No.9  
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

## 副作用の発現



### 事例

#### 【事例の内容】

検査値付き処方箋をFAXで受け付けた。検査値を確認すると、CK値が1,071IU/Lであった。前回のCK値が38IU/Lであったことから、処方医に問い合わせ、検査値の上昇について伝えたと、アトルバスタチン錠10mg「サワイ」とメトホルミン塩酸塩錠500mgMT「三和」が削除になった。患者はFAX受付当日に来局しないため、アトルバスタチン錠10mg「サワイ」とメトホルミン塩酸塩錠500mgMT「三和」の服用を中止するよう電話で説明した。

#### 【背景・要因】

患者にアトルバスタチン錠10mgが長期間継続して処方され、少し前にメトホルミン塩酸塩錠が250mgから500mgへ増量されていた。検査値付きの処方箋であったため、検査値の異常に気づき、疑義照会を行うことができた。

#### 【薬局から報告された改善策】

定期的に検査値の確認を行う。薬剤の増量や変更が行われた場合は、その後の検査値の確認を怠らない。



### その他の情報

#### アトルバスタチン錠5mg／10mg「サワイ」の添付文書（一部抜粋）

##### 【使用上の注意】

#### 4. 副作用

##### 1) 重大な副作用（頻度不明）

(1) 横紋筋融解症、ミオパチー：筋肉痛、脱力感、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれ、急性腎障害等の重篤な腎障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には直ちに投与を中止すること。また、ミオパチーがあらわれることがあるので、広範な筋肉痛、筋肉圧痛や著明なCK（CPK）の上昇があらわれた場合には投与を中止すること。

#### メトホルミン塩酸塩錠250mgMT／500mgMT「三和」の添付文書（一部抜粋）

##### 【使用上の注意】

#### 4. 副作用

##### 1) 重大な副作用（頻度不明）

4) 横紋筋融解症：筋肉痛、脱力感、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。



### 事例のポイント

- 本事業では検査値が記載された処方箋に関連する事例の報告が増えてきているが、薬剤師が患者から聴取した検査値をもとに、薬剤による副作用発現の可能性を検討している事例も多く報告されている。
- 安全で有効な薬物療法を行うために、日頃から検査値も含めた多角的な情報から副作用発現の有無を検討することが大切である。
- 患者の検査値に異常や変動が見られ、薬剤による副作用発現の可能性が考えられる場合は、処方医と情報共有することが重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル  
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）  
<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。